

# 会話データにおける「文の包摂」の出現状況

泉 大輔（立教大学）<sup>†</sup>

## A Survey of Sentential Compound in Japanese Conversation

Daisuke Izumi (Rikkyo University)

### 要旨

本研究では、合成語のその内部に文相当の要素が包み込まれた言語現象を「文の包摂」と呼び、その用例を会話データから収集し、出現状況の調査と形成過程の記述を行った。『日本語日常会話コーパス』から得られた175件の用例のうち、「文の包摂」の後項となりうる名詞・接尾辞は40種あり、特に用例数が多かった後項には「感」「系」「用」「レベル」などがあった。また、その使用者は110名おり、性別を問わず小学生から高齢者まで幅広い年代の話者に使用されていることが明らかとなった。さらに、「文の包摂」の形成過程においては、先行文脈を受けてある話者が臨時的に命名し作り出した語に応じる形で別の話者が「文の包摂」の表現を作り出すという事例が見られた。これは会話における「文の包摂」の形成の1つの特徴であると考えられる。

### 1. 目的と背景

本研究で研究の対象としているのは、「振り込め詐欺」「幻のポケモンをもらおう！キャンペーン」「いいねボタン」「朝はパンだ派」「かまってちゃん」「なんでも言うこと聞きます券」など、「文相当の要素」に名詞や接尾辞が直接後続している言語形式である<sup>1</sup>。本研究では、このような言語表現を、合成語のその内部に文相当の要素が包み込まれた言語現象と捉え、便宜的に「文の包摂<sup>2</sup>」と呼ぶこととする<sup>3</sup>。

通常、動詞の命令形（「振り込め」）や意志形（「もらおう」）、テ形（「かまって」）、名詞に後接する「だ」の終止形（「パンだ」）、終助詞（「いいね」）、丁寧形（「聞きます」）などで終了する文は、合成語の前項になり得ない。この点で、従来の文法規則には当てはまらない特異な言語現象であると言える。このように、「文の包摂」は語の内部構造を扱う語構成論と、文の内部構造を扱う統語論にまたがる言語現象であるため、「文の包摂」の考察を進めることによって、語構成論と統語論の両者に資する研究になるのではないかとこの点で意義があると考えられる。

<sup>†</sup> daisuke.izumi7@gmail.com

<sup>1</sup> 本稿における下線はすべて筆者による。

<sup>2</sup> 接尾辞「感」の用法について考察した曾（2017:152）では、「「やっちゃったなあ」感」「バブル後に全ていなくなりました感」などを例に挙げ、文相当の要素と「感」が結びつく表現を「文を包摂する「感」」と呼んでいる。同様の言語現象を久賀（2022）では「引用標識不在型複合名詞」、細谷（2022）では「句複合語」としている。本研究では曾（2017）に倣い、便宜的に「文の包摂」という用語を用いるが、当該の言語現象を指し示す名称については今後も検討する必要がある。

<sup>3</sup> 類似する言語現象には、「句の包摂」（影山 1993）がある。これは「中世のフランス風」「懐かしの名器展示会」「24日に開催された美人コンテスト会場」（下線部が句の部分）など（影山 1993:326-327）、合成語の内部に「句」が包み込まれていると捉えられる現象のことである。語形成規則上、通常は合成語の構成要素にはなり得ないものが前項になっている点で、「句の包摂」と「文の包摂」は共通している。しかし、「文の包摂」は、「中世のフランス」や「懐かしの名器」などの名詞句ではなく、「やっちゃったなあ」や「行くぞ！」などの文相当の要素が前項となる点で「句の包摂」とは異なる。

この「文の包摂」という言語現象については、泉（2024）によって研究が進展しつつあるものの、ウェブ上のテキストを考察対象とするにとどまっている。そこで本研究では、実際の会話データを考察の対象とすることで、「文の包摂」の実態をより詳細に記述することを目的とする。

## 2. 調査方法と結果

本研究では実際の会話データを考察対象とすることから、『日本語日常会話コーパス<sup>4</sup>』を用いて用例の収集を行う。また、検索にはコーパス検索アプリケーション『中納言』の短単位検索を用いる。検索条件には、泉（2024:51-66）の調査で観察された後項（名詞および接尾辞）全 182 種を「語彙素」に指定した<sup>5</sup>。得られたテキストデータを目視で確認し、「文の包摂」の用例だと思われるものは、音声データで音調の確認を行った<sup>6</sup>。この手順で用例数を集計した結果、最終的には有効なデータとして 175 件の用例が得られた。以下の表 1 は、得られた用例を後項別の出現数が多い順に示したものである。

表 1 用例数の内訳

順位	後項	例	度数
1	感	電源入れました感、趣味を押し付けてしまった感、いけないことをしてしまった感、ピンクであんまやった感、裏切られた感、廃れた感、どうだ感、住みたい感、あれはなんだったんだろう感、助けて感、引いちゃってる感、やってる感、場所取ってる感、狙ってる感(2) <sup>7</sup> 、ゆわさされてる感、かわいがられてる感(2)、押さえ付けられてる感、携帯で旅してる感、包まれてる感、もう一杯飲みたいな感、置いてきぼりにしない感、循環してない感、構わない感、慣れてない感、一回に運び切れない感、行かなきゃ感、それ違う感、繋がる感、厳しい感、仕方ない感、鎌倉の名前を借りて売れる感、徹底して遊ぶ感、落ち着く感(2)	36
2	系	いい系、気持ち悪くなっちゃう系、授業参観とか行かない系、話しかけない系、理由は話せない系、切ってない系、外に行ってぎゃーぎゃーハはしゃごう系 <sup>8</sup> 、電気直します系、やばい系(4)、ずっとやる系、意	23

<sup>4</sup> データバージョン 2023.03

<sup>5</sup> 後項が「禁止令」「大作戦」のような合成語の場合は、「令」「作戦」をそれぞれ「語彙素」に指定し、その「前方共起条件」として「語彙素」に「禁止」「大」を指定した。

<sup>6</sup> 泉（2024）では「文の包摂」の音韻的な特徴として「連濁」と「合成語アクセント」の 2 つを挙げている。どちらも絶対的な基準ではないが、通常の名詞修飾構造と区別するための判断材料の 1 つとなる。今回の調査では、音声小さくて聞き取れない場合や、話者が言い淀んでしまった場合に、「文の包摂」の音調が確認できない用例がいくつかあった。その場合であっても、文脈から「文の包摂」だと判断されるものは考察の対象に含めることとする。

<sup>7</sup> 括弧内の数字は使用した回数を示している。

<sup>8</sup> 「外に行ってぎゃーぎゃーハはしゃごう系」の「ハ」はコーパスの検索結果をそのまま転記したものである。

		識高い系(3)、使う系、治す系、登る系、同じ系、怖い系、飽きる系、優しい系	
3	用	びんちゃんがわたしを送り迎えしてくれる用、それをしまう用、固定する用、今飲む用、かき揚げを作る用、一眼に使える用、捨てる用、飾る用、自分で食べる用、置く用、歩く用(3)、量る用(2)、冷やす用	16
4	レベル	ほとんど使わないものは持ってこさせなくてもいいレベル、もう商用化してるレベル、前が見えないレベル、この比じゃないレベル、怒るエネルギーもそこそこないレベル、裏付け的なものがほしいレベル、壇上に上がって撮るレベル、当たり前前なのが嬉しいって思うレベル、中国共産党からもうこれ以上やるのはよしてくれってゆうお達しが来るレベル	9
5	詐欺	オレオレ詐欺(7)、取る取る詐欺	8
5	派	だめ派 <sup>9</sup> 、甘い派、普通のビールがいい派、行かない派、粘り気出す派、卵白は二回に分ける派、脂が溶ける派、綿密に計画立てる派	8
7	風(ふう)	リボンが手で持ってる風、知ってる風、仕事してる風、反省してる風、岩牡蠣がこう入ってる風、作業してます風、いろいろ入ってるように見える風	7
8	説	がいいんじゃないか説、桜坂なんじゃないか説、ちっちゃく切りすぎた説、しょっぱなからアイス入れすぎた説、眠くてごねてた説、もう遊んだ説	6
8	版	おいしい版、しょぼい版(2)、混ざった版、ちょっと伸びた版、もうちょい頑張ってる版	6
10	バージョン	干渉するバージョン、できたバージョン、しっかり綺麗に盛り付けたバージョン、もっと伸びたバージョン、古いバージョン	5
10	問題	あの人はジャニーズなのか問題、かな見出しどうするか問題、空見出しをどうするか問題、チョコレート二千六十年ぐらいになくなる問題、北朝鮮から帰って六本木のあの居酒屋に入ってフライデーされる問題	5
12	オーラ	やる気があるオーラ、やる気あるオーラ、あたしたち九時に帰りたいですオーラ、やる気ないオーラ	4
12	状態	俺の修ちゃん貸してやるぜ状態、テンキューは行ったことあるんだよな状態、俺は関係ない状態、元気でいてね状態	4
12	マン	おしっこ漏らしたマン、わかるマン(3)	4
15	パターン	貼り付けてくパターン、ワードに貼り付けるパターン、ライターで炙るパターン	3
15	モード	自分のことしか考えてないモード、ヘッドフォンのやつが引っこ抜けても音が出ないモード、一人で遊べるモード	3
17	ゲーム	右手で飲んじゃいけないゲーム、あっち向いてほいゲーム	2
17	勢(ぜい)	あんまり来ないんじゃないか勢、海外行きたい勢	2
17	程度	型紙いる程度、ミルクティーにしたりする程度	2

<sup>9</sup> 通常の派生語と捉えられることもできるが、文脈から「文の包摂」であると判断した。

17	病	繰り返さないと死んじゃう病、全然うまくいかない病	2
21	化	見える化	1
21	顔（かお）	みんながなりたい顔 <sup>10</sup>	1
21	カード	ありがとうカード	1
21	疑惑	子供を働かせている疑惑	1
21	計画	あっちのカバーも作っちゃえ計画	1
21	婚	できちゃった婚	1
21	シリーズ	食べんのわからないシリーズ	1
21	シール	楽しかったよシール	1
21	スタンス	おめでとうスタンス	1
21	星人	まじか星人	1
21	力（りょく）	広める力	1
21	ちゃん	構ってちゃん	1
21	調	これってどうすればいいかな調	1
21	ツアー	中落ち掬うツアー	1
21	発言	よく考える発言	1
21	パーティ	野菜も食べるパーティー	1
21	風味	やってる風味	1
21	プロジェクト	蟬を助けるプロジェクト	1
21	メール	許可この時間で取りましたメール	1
21	論争	大鏡の冒頭文を必修でやるかしないか論争	1
	合計		175

得られた 175 例のうち、後項の異なり語数は 40 であった。最も用例数が多かったのは「感」(36 件)で全体の約 2 割を占める。次いで用例数が多かった後項には、「系」(23 件)、「用」(16 件)があり、5 件以上用例があったものには、「レベル」(9 件)、「詐欺」(8 件)、「派」(8 件)、「風」(7 件)、「説」(6 件)、「版」(6 件)、「バージョン」(5 件)、「問題」(5 件)が挙げられる。用例数が上位の後項のうち、7 種の後項が漢語接尾辞であり、一般的な派生語を作る場合と同様に、「文の包摂」も漢語接尾辞による形成が生産的である。また、後項を語種の観点から見ると、全 40 種のうち、漢語が 22 種(55%)、外来語が 15 種(37.5%)、和語が 3 種(7.5%)であった<sup>11</sup>。

続いて「文の包摂」を使用した話者およびその話題形式について述べる。以下の表 2 の通り、コーパスから得られた 175 件の用例は異なり話者数 110 名(男性 46 名、女性 64 名)によって使用されたものであった。『日本語日常会話コーパス』の概要について示された国立

<sup>10</sup> 泉(2024)の調査では、「文の包摂」の後項が「顔」の場合、「がお」に連濁するという結果が得られている。ここでの「みんながなりたい顔」は連濁しておらず通常の名詞修飾構造とも捉えられるが、合成語アクセントで発話されていたため、今回は考察の対象に含めることとした。

<sup>11</sup> ブログなどのウェブ上のテキストを中核的な資料として「文の包摂」の用例を約 1.5 万件収集した泉(2024)の調査においても、後項の語種は漢語が過半数を超え、外来語が約 3 割、和語が約 1 割という結果であったため、概ね同様の内訳であるといえる。

国語研究所のサイトによると<sup>12</sup>、コーパス全体の異なり話者数は 862 名であることから、約 11.6% の話者が「文の包摂」を使用していたことになる。表 2 を見ると、使用者は性別を問わず、年齢も小学生<sup>13</sup>から高齢者まで幅広いことが読み取れる。

110 名の使用者のうち、「文の包摂」を複数回使用している話者は 35 名おり、8 件使用した話者が 1 名（20-24 歳女性）、6 件使用した話者が 1 名（25-29 歳女性）、5 件使用した話者が 2 名（20-24 歳男性および 30-34 歳女性）、4 件使用した話者が 2 名（25-29 歳男性および 20-24 歳女性）、2~3 件使用した話者が 29 名であった。また、表 3 は 3 件以上「文の包摂」を使用した話者がどのような表現を用いたのかを示している。これを見ると、1 人の話者が種々の後項を持つ「文の包摂」の表現を使用している場合もあれば、1 人の話者が同じ後項を持つ「文の包摂」の表現を使用している場合も見られる<sup>14</sup>。

表 2 年齢および性別の内訳

年齢	男性	女性	合計
0-4 歳	1	0	1
5-9 歳	1	0	1
10-14 歳	5	1	6
15-19 歳	5	8	13
20-24 歳	12	20	32
25-29 歳	17	11	28
30-34 歳	5	10	15
35-39 歳	10	6	16
40-44 歳	5	15	20
45-49 歳	3	14	17
50-54 歳	4	8	12
55-59 歳	3	1	4
60-64 歳	0	5	5
65-69 歳	1	2	3
75-79 歳	1	1	2
合計	46	64	110

<sup>12</sup> <https://www2.ninjal.ac.jp/conversation/cejc/design.html> (2024 年 8 月 1 日閲覧)

<sup>13</sup> 0-4 歳の未就学児による使用例は、子ども向け学習教材を扱う Z 会が販売する「できたよシール」というシールを見て発話したものであった。そのため、当該の未就学児が自身で造語したものではない。

<sup>14</sup> 断定はできないが、「文の包摂」をよく使用する話者ほど、種々の後項を持つ「文の包摂」の表現を自由に作り出すのではないだろうか。一方、種々の後項を持つ「文の包摂」の表現をそこまで使用しないとしても、特定の後項を持つ「文の包摂」だけを多用する話者もいるのかもしれない。

表3 「文の包摂」の使用数が多い話者（3件以上）

順位	話者 ID	話者ラベル	性別	年齢	後項	使用例
1	T009	IC01_安藤	女	20-24 歳	感	それ違う感、趣味を押し付けてしまった感
					状態	テンキューは行ったことあるんだよな状態
					説	眠くてごねてた説
					調	これってどうすればいいかな調
					派	脂が溶ける派、粘り気出す派
					版	しょぼい版
2	K013	IC01_雪江	女	25-29 歳	系	いい系、やばい系 (3)、登る系、同じ系
3	T008	IC01_彩香	女	30-34 歳	感	電源入れました感
					系	意識高い系、気持ち悪くなっちゃう系
					詐欺	取る取る詐欺
					病	全然うまくいかない病
3	T010	IC01_徹	男	20-24 歳	スタンス	おめでとうスタンス
					感	引いちゃってる感、仕方ない感
					顔	みんながなりたい顔
					勢	あんまり来ないんじゃないか勢
5	K007	IC01_湯本	男	25-29 歳	バージョン	干渉するバージョン
					感	あれはなんだったんだろう感
					系	やばい系
					説	ちっちゃく切りすぎた説
5	K003	IC03_詩織	女	20-24 歳	感	慣れてない感、助けて感
					状態	俺の修ちゃん貸してやるぜ状態、俺は関係ない状態
7	T022	IC01_雪室	男	25-29 歳	ちゃん	構ってちゃん
					レベル	怒るエネルギーもそこそこないレベル
					説	もう遊んだ説
7	K011	IC01_川原	女	50-54 歳	レベル	当たり前なのが嬉しいって思うレベル
					感	ピンクであんまやった感
					系	授業参観とか行かない系
7	K012	IC01_平沢	男	30-34 歳	モード	一人で遊べるモード
					レベル	もう商用化してるレベル
					用	今飲む用
7	W007_003	IC02_一色	女	40-44 歳	用	一眼に使える用、歩く用 (2)
7	T009_011	IC02_古川	男	20-24 歳	ゲーム	あっち向いてほいゲーム、右手で飲んじゃいけないゲーム
					版	もうちょい頑張ってる版

7	T001	IC02_広瀬	男	35-39 歳	感	落ち着く感 (2)
					版	おいしい版
7	S001_014	IC02_舞	女	45-49 歳	詐欺	オレオレ詐欺 (3)
7	T022_012	IC02_風間	男	45-49 歳	オーラ	やる気あるオーラ、やる気があるオーラ、やる気ないオーラ
7	T014	IC03_吉田	女	45-49 歳	感	やってる感
					系	治す系
					状態	元気でいてね状態
7	T018_003	IC03_楊	男	10-14 歳	レベル	中国共産党からもうこれ以上やるのはよしてくれってゆうお達しが来るレベル
					系	外に行ってぎゃーぎゃーハはしゃごう系、使う系

### 3. 考察：会話における「文の包摂」の形成過程

本節では、「文の包摂」が会話の中で話者たちによってどのように形成されるのか、その過程を記述する。泉 (2024) では「文の包摂」の形成過程において、一般に語が有する「名づけ」の機能がその成立基盤として機能すると述べられているため、本節でも「名づけ」の観点から記述を行う。

以下では、2 つの事例（「野菜も食べるパーティー」「繰り返さないと死んじゃう病」）を扱う。いずれも先行文脈を受けて会話の参加者たちが臨時的な命名をし合い、最終的に「文の包摂」が生まれるというものである。先行文脈に登場する要素を材料に「文の包摂」の表現が生まれることは「打ちことば」の「文の包摂」においても観察されている。一方、会話における形成過程の特徴としては、話者たちが応酬の中で先行文脈を受けて臨時的に語を作り合う過程で「文の包摂」の表現が生まれるという特徴が見られた。

#### 3.1 事例①：野菜も食べるパーティー

本節では、会話の参加者たちが先行文脈を受けて臨時的な命名をし合い、最終的に「文の包摂」が生まれる例として「野菜も食べるパーティー」という表現を挙げる（例 (19)）。この例は、自宅で食事の家族の雑談において観察されたもので、「(豆腐ばかりではなく)野菜も食べるイベント」をパーティーに見立てて表現されている。以下の会話では、まず鍋料理を囲む食卓にて、母 (IC02\_郷美) が息子 (IC03\_晴哉) の器を手にした際に、息子が「お豆腐パーティー」と突然言い出す。豆腐が好物である息子は、母が自分の器に野菜を取り分けたため、野菜ではなく豆腐が食べたいということを訴えるが（「野菜パーティーじゃないんだよ」「お豆腐パーティーなんだよ」）、父 (IC01\_原田) から豆腐だけではなく野菜も食べるように促され（「野菜も食べるパーティーだよ」）、がっかりする（「オーノー」「お豆腐パーティーが」）という流れで進む。以下、会話データの概要を表 4 に示す<sup>15</sup>。

<sup>15</sup> 会話データの転記テキストにおける記号の凡例は巻末に示す。

表 4 会話データの概要（野菜も食べるパーティ）

項目	内容
セッション ID	T019_010
会話概要	自宅で配偶者・息子たちと夕食を取りながら
話者ラベル	IC01_原田（40-44 歳男性）…「野菜も食べるパーティ」の発話者 IC02_郷美（原田の妻） IC03_晴哉（原田の息子） IC04_麗央（原田の息子）
話者間の関係性	家族
形式	雑談
場所	自宅
活動	食事・レジャー活動

- (1) IC02\_郷美：食べる？。
- (2) IC01\_原田：もういいの？。
- (3) IC02\_郷美：うん。
- (4) IC02\_郷美：もう大丈夫。
- (5) IC01\_原田：ほー。
- (6) IC03\_晴哉：入れる。
- (7) IC03\_晴哉：(D #)。
- (8) IC01\_原田：チーズ:増し増しで。
- (9) IC03\_晴哉：お豆腐パーティー。
- (10) IC01\_原田：(L お豆腐パーティー)?。
- (11) IC02\_郷美：ふーん。
- (12) IC01\_原田：(L パーティー)。
- (13) IC03\_晴哉：お豆腐の家にお豆腐で:の:靴を履いて:パーティーするの。
- (14) IC01\_原田：あー。
- (15) IC01\_原田：でもそっちのがおいしそうだね。
- (16) IC03\_晴哉：あー。
- (17) IC03\_晴哉：野菜パーティーじゃないんだよ:。
- (18) IC03\_晴哉：お豆腐パーティーなんだよ:?。
- (19) IC01\_原田：野菜も食べるパーティーだよ。
- (20) IC03\_晴哉：オー ノー。@Oh, no
- (21) IC03\_晴哉：お豆腐パーティーが:。
- (22) IC01\_原田：(L ◇)
- (23) IC01\_原田：(L ◇)

「野菜も食べるパーティー」（例（19））は、ここでは、「（鍋料理の）野菜もたくさん食べるイベント」を表している。後項の「パーティー」は社交的な集まりや宴会ではなく、家族や友人などで楽しく料理を囲む会、あるいはある特定の料理がたくさん振る舞われた



会を表している。「鍋パーティー」「たこ焼きパーティー」などの複合語の後項と同じ意味であると思われる。

以下、「野菜も食べるパーティー」という語が形成されるまでの過程について説明する。まず、食卓で鍋を囲む中、息子 (IC03\_晴哉) が「お豆腐パーティー」(例 (9)) と言い出す。判断は難しいが、これは自分の器に鍋から具材を取り分ける母 (IC02\_郷美) に対して豆腐を入れてほしいということを訴えているか、あるいは単に自分の好物である豆腐をたくさん食べることを「パーティー」のようなイベントと見立ててこのように名づけているのではないかと思われる。

この突飛な発言を受けて、父 (IC01\_原田) は「(L お豆腐パーティー)?」(例 (10)) と笑いながら復唱し、さらに続けて聞き返すような上昇調のイントネーションでもう一度「パーティー」(例 (12)) と小さくつぶやく。父の表情や発話からは、息子が突然命名した「お豆腐パーティー」という言葉に対して、口には出していないが今にも「お豆腐パーティーって何だよ」とつつこみそうな様子や、それを戸惑いつつもおもしろおかしく感じている様子が窺える。

父の反応を受けて、息子は「お豆腐の家にお豆腐で:の靴を履いて:パーティーするの」(例 (13)) という「お豆腐パーティー」の説明を始める。息子の想像上の世界における「お豆腐パーティー」では、何もかもが豆腐づくしで、楽しくパーティーを行うようである。しかし、父はこの説明の途中で「そっち (=チーズが入ったもの) のがおいしそうだね」と息子の発話をスルーする。ここで、自分の器に母が野菜を取り分けていることに気づいた息子はすかさず甲高い大きな声で「野菜パーティーじゃないんだよ:」(例 (17)) と叫び、間髪入れずに「お豆腐パーティーなんだよ:?!」(例 (18)) と続ける。先行文脈に登場していた「お豆腐パーティー」と対比する形で「野菜パーティー」という命名を行うことによって、自分は野菜を食べたくないから豆腐を取り分けてほしかったのだと母に訴えているのであろう。

これを受けて父はそれまでの「お豆腐パーティー」「野菜パーティー」という息子の造語に応じる形で「野菜も食べるパーティーだよ」(例 (19)) と顔をほころばせながらおだやかな口調でつつこみを入れる。それを聞いた息子は両手を頭に当てて絶望しているかのようなポーズをとりながら「オーノー」「お豆腐パーティーが:」(例 (20) (21)) と嘆く素振りを見せるが、実際は半笑いでふざけていることが窺える。このように、会話の参加者である父と子の応酬の中で、先行文脈を受けた臨時的な語の創造(命名)が行われていく。すなわち、「お豆腐パーティー」「野菜パーティー」という対比的な構造の命名を経て、最終的には「野菜も食べるパーティー」という「文の包摂」による造語が形成されている。

野菜をたくさん食べるイベントを単に言い表すなら、息子が作った「野菜パーティー」という語を父も繰り返せばよかったのだろうが、父が「文の包摂」の形である「野菜も食べるパーティー」という表現を用いたのにはいくつかの理由が考えられる。まず「も」という累加のとりたて助詞によって「豆腐だけでなく野菜も」という意図を示すことが可能となる。

「野菜パーティー」という一般的な複合語の形式では表し切れない意味を「文の包摂」の形式で表現しているのである。また、「野菜も {食べる/食べなさい}」のように直接的な命令の形で伝えるのではなく、先行文脈における相手(息子)の命名の構造(「○○パーティー」)を借り、前項を部分的に変更して言い返すことによって、野菜を食べることを間接的にももしろおかしく促すことが可能となっている。頭ごなしに息子の発言を否定せず、野菜も好き嫌いしないで食べてほしいという父の意図が推察される。

「野菜パーティーじゃないんだよ」と訴える息子に対しては、通常の名詞修飾節の音調

(ヤサイモタベルパーティ)で息子に回答してもよいと考えられる。しかし、実際には「文の包摂」の音調(ヤサイモタベルパーティ)で発話している。これにより、結果的には話者(父)が相手(息子)の発話と、構造や音調の点で類似する言語形式を用いて返答することになり、子どもである息子の言語使用に合わせた応答をしたようにも捉えられる。

### 3.2 事例②：繰り返さないと死んじゃう病

次の例も同様に先行文脈を受けて臨時的に名づけられるタイプの「文の包摂」で、「繰り返さないと死んじゃう病」という表現である(例(67))。この例は、車で移動中の家族の雑談において観察されたもので、「(気になった言葉を)繰り返さなければ死んでしまう(のではないかと思うほどの)状態」を病気に見立てて表現されている。以下の会話では、気に入った言葉を何度も繰り返す息子(IC03\_謙一)の特殊な癖をめぐって、男性(IC01\_慎吾)とその妻(IC02\_理奈子)、息子(IC03\_謙一)、義母(IC04\_ばあば)が当該の状態に名前をつけ合う流れで進む。以下、会話データの概要を表5に示す。

表5 会話データの概要(繰り返さないと死んじゃう病)

項目	内容
セッションID	T016_007
会話概要	配偶者・息子たち・義母と車で移動中
話者ラベル	IC01_慎吾(40-44歳)…「繰り返さないと死んじゃう病」の発話者 IC02_理奈子(慎吾の妻) IC03_謙一(慎吾の息子) IC04_ばあば(慎吾の義母) IC05_鉄朗(慎吾の息子)
話者間の関係性	家族
形式	雑談
場所	交通機関_車
活動	移動

- (24) IC03\_謙一：山ん中にこんなところにさ:(D ド)(D アニ)(F あの:) アニキンがあんのか。@アニマルキングダム
- (25) IC02\_理奈子：うん。
- (26) IC03\_謙一：アニキン アニキン。
- (27) IC01\_慎吾：(G まあま)山ん中山ん中%じゃないけどね。
- (28) IC02\_理奈子：アニキが?。@アニマルキングダム
- (29) IC03\_謙一：アニキが アニキがあんのか。
- (30) IC01\_慎吾：たぶん。
- (31) IC02\_理奈子：アニキがいるよ。
- (32) IC03\_謙一：アニマル(W キングダムムキングダム)。(X #)アニキン。
- (33) IC05\_鉄朗：アニマル(W キンキング)。
- (34) IC02\_理奈子：うーん。

- (35) IC03\_謙一：略してアニキン。
- (36) IC02\_理奈子：アニキン。(L ◇)
- (37) IC05\_鉄朗：(W ギャクシ略し)てアニキン。
- (38) IC02\_理奈子：(R 謙一)ってなんか同じ言葉繰り返す癖があるよね。
- (39) IC01\_慎吾：うん。
- (40) IC03\_謙一：うーん。
- (41) IC01\_慎吾：(U 俺)でも三四回ゆうよ。
- (42) IC05\_鉄朗：うーん。
- (43) IC02\_理奈子：気に入るとなんか何度もゆうよね。
- (44) IC01\_慎吾：(T (U わかんないけど))。(X #)響きが気に入ると。
- (45) IC03\_謙一：うーん。俺 (G そうそ) そうゆう(W レ俺)そうゆう症状にかかっているからさ。
- (46) IC02\_理奈子：うん。そうゆう癖?
- (47) IC04\_ばあば：(L ◇)
- (48) IC02\_理奈子：(W ショジョー症状)(D ウ)。
- (49) IC01\_慎吾：あー。そうゆう病気なの(L ね)。
- (50) IC02\_理奈子：えっ。症状。
- (51) IC03\_謙一：繰り返し。
- (52) IC02\_理奈子：あー。
- (53) IC03\_謙一：うーん。
- (54) IC03\_謙一：(D クリカ)繰り返し 繰り返し症状。
- (55) IC02\_理奈子：繰り返し病?
- (56) IC05\_鉄朗：繰り返し(U 泥棒)。
- (57) IC03\_謙一：あ。繰り返し症だ。
- (58) IC05\_鉄朗：(D クラ)。
- (59) IC02\_理奈子：繰り返し症候群?
- (60) IC03\_謙一：(T (W クリカ繰り返し))(T (U 症候群))。
- (61) IC04\_ばあば：リピーター症候群。
- (62) IC01\_慎吾：(D クリ)。
- (63) IC02\_理奈子：(L ◇)
- (64) IC05\_鉄朗：(D クル)。(W ピーターリピーター)。
- (65) IC03\_謙一：繰り返し症。
- (66) IC05\_鉄朗：(X ##)。
- (67) IC01\_慎吾：繰り返さないと死んじゃう病なんじゃない。
- (68) IC03\_謙一：繰り返し症だからさ。あ。
- (69) IC05\_鉄朗：(D クリ)繰り返し症:だから。
- (70) IC03\_謙一：ちょっと。
- (71) IC02\_理奈子：つらいね。
- (72) IC01\_慎吾：つらいな。
- (73) IC05\_鉄朗：繰り返し症。
- (74) IC01\_慎吾：つらい病気だね。
- (75) IC02\_理奈子：なんでゆうんだろうね。自分の中にこう:埋め込みたいのかな。

- (76) IC01\_慎吾：(L ◇)
- (77) IC01\_慎吾：なんか(D シ)(D ナ)じっくり来るまで落とし込みたいんじゃない。
- (78) IC05\_鉄朗：繰り返し症。繰り返し症。
- (79) IC02\_理奈子：うん。あー。
- (80) IC05\_鉄朗：繰り返し症。
- (81) IC01\_慎吾：(L ◇)(L ごめん)。
- (82) IC05\_鉄朗：繰り返し症。

「繰り返さないで死んじゃう病」は、その後項が「病」であるが、本当の病気を表すのではなく、何らかの特殊な癖を、まるで病気のような状態やそれによる症状であるかのように捉えた表現である。「文の包摂」においてはその後項が「病」「症」「症候群」である場合に、実際の病気や症状ではなく特殊な癖や習慣を表す用例が多数見られ、その前項によってどのような癖や習慣であるのかが表される。

以下、「繰り返さないで死んじゃう病」という語が形成されるまでの過程について説明する。まず、息子 (IC03\_謙一) が「アニキン」(アニマルキングダム の略) という気に入った言葉をよく繰り返すこと (例 (26) (32) (35)) を受け、妻 (IC02\_理奈子) が夫 (IC01\_慎吾) に「(息子は) 同じ言葉繰り返す癖がある」(例 (38)) と告げる。妻は息子が気に入った言葉を繰り返してしまうことを「癖」だと捉えており、ここから息子の癖に関する話が始まる。

両親のこの会話を受け、息子は「(自分は) そうゆう症状にかかっている」(例 (45)) と答えている。ここで、息子は気に入った言葉を繰り返してしまうことを一種の病気による異状であるかのように捉え、「症状」と表現している。その発言に対して、単に「癖」だと捉えていた妻は息子がそれを「症状」と表現していることが新鮮でおもしろかったのか「(W ショジョー症状)」「えっ。症状。」(例 (48) (50)<sup>16</sup>) と小さく笑いながら復唱している。夫も同様に「あー。そうゆう病気なの(L ね)。」(例 (49)) と言い、息子が「症状」という言葉を使ったことから、これが「癖」ではなく「病気」であると捉えていることを認識している。

両親の発話を受け、息子は「繰り返し:」「うーん」(例 (51) (53)) と言い、その後続く言葉を頭の中で探している様子が観察される。さらに「(D クリカ)繰り返し」と考えながら言葉を繰り返す息子に対して、母は「あー。」と言い(例 (52))、適切な名前が思い浮かばないと察したのか「繰り返し病?」(例 (55)) という名づけの案を提示する。このことから、息子は自分が気に入った言葉を繰り返してしまうことを「繰り返し」という語を使って命名しようと試みていたことがわかる。息子は母からの提案を受けて適切な言葉が思いついたかのように「繰り返し症状」と言い放つ<sup>17</sup>(例 (54))。

しかし、息子は「繰り返し症状」と命名するとすぐに何かに気づいたかのように顔の向きを変え、「あ。繰り返し症だ」(例 (57)) と言い直す。このことから、「繰り返し症状」

<sup>16</sup> 転記テキスト上は笑いを示す「L」の記号は付されていないが、映像を見るとやや笑いながら「えっ。症状。」と復唱していることが確認された。

<sup>17</sup> ここで、両親たちの会話や、何度も「繰り返し」という言葉を繰り返している兄 (IC03\_謙一) の発話を受けて、未就学児 (0-4 歳) の弟 (IC05\_鉄朗) も「繰り返し」(例 (56)) と声高に言い放ち、会話に参加しようとする様子が見られる。

という名前はどこか据わりが悪く、「繰り返し症」のほうが適切であると思い直したことが読み取れる。病的な異状を表す複合語としては「症状」を後項とするよりも、「花粉症」「高所恐怖症」のように「症」を後項とするほうが一般的であると判断したのかもしれない<sup>18</sup>。

息子が「繰り返し症」という再命名をしたのを受けて、母は「繰り返し症候群?」（例（59））と尋ね、息子は小声で「症候群」（例（60））と復唱する。息子と母が命名の案を出す中で、祖母（IC04\_ばあば）もすかさず「リピーター症候群」と提案し、名づけをし合う会話に参加しようとする<sup>19</sup>。母や祖母の案を聞いてもまだ納得しないのか、息子は「繰り返し症」（例（65））とつぶやき続けると、名づけをし合う会話が始まって以降はじめて父が口を開き「繰り返さないと死んじゃう病なんじゃない」（例（67））と「文の包摂」を用いた名称を提案する。

以上をまとめると、「繰り返さないと死んじゃう病」という語は、会話の参加者が命名対象（気に入った言葉を繰り返してしまう状態）をそれぞれ一般的な複合語の形（「繰り返し症状」「繰り返し病」「繰り返し症」「繰り返し症候群」「リピーター症候群」）で臨時的に命名し合い、最終的に「繰り返さないと死んじゃう病」と名付けられることで生まれている。その過程は、まず、表現対象である「（息子の）同じ言葉を繰り返す癖」（例（38））が会話の参加者（ここでは母）によって着目されて話題に上がることから始まる。息子が「そういう症状」（例（45））と言出し、それを適切に言い表す名前をつけようと模索する様子を受けて、他の家族たちも息子の癖をまるで病的な異状であるかのようにおもしろおかしく名づけようとする。結果的に「症」「病」「症候群」などで終わる種々の名前がつけられるという先行文脈を受けて、「繰り返さないと死んじゃう病」という「文の包摂」の形でまとめられる。

#### 4. 本研究のまとめと今後の課題

本研究では、合成語のその内部に文相当の要素が包み込まれた言語現象「文の包摂」の用例を会話データから収集し、その出現状況の調査と形成過程の記述を行った。得られた175件の用例のうち、「文の包摂」の後項となりうる名詞・接尾辞の種類は40種あり、特に用例数が多かった後項には「感」「系」「用」「レベル」などがあった。その使用者は110名おり、性別を問わず小学生から高齢者まで幅広い年代の話者に使用されていることが明らかとなった。さらに、「文の包摂」の形成過程においては、先行文脈を受けてある話者が臨時的に命名し作り出した語に応じる形で別の話者が「文の包摂」の表現を作り出すという事例が見られた。これは会話における「文の包摂」の形成の1つの特徴であると考えられる。

今後の課題としては、会話データをさらにつぶさに観察し、会話における「文の包摂」や命名の諸特徴の記述を精緻化していくこと、書きことばやウェブ上のテキストなどのデー

---

<sup>18</sup> 「症」または「症状」で終わる見出し語を『デジタル大辞泉』（<https://dictionary.goo.ne.jp/jn/>）で検索すると、「症」で終わる見出し語は662語あるのに対して、「症状」のほうは18語しかない（2024年8月8日検索）。このことから、一般に病的な異状を表す複合語は「症状」よりも「症」を後項とする場合が多いと言える。

<sup>19</sup> ここでも弟は兄や祖母の発話を復唱する形で「(D クル)。(W ピーターリピーター)」（例（64））と発話し、会話に参加しようとする様子が見られる。なお、一連の会話の中では、「繰り返し症」が命名されてからは弟が「繰り返し症」（例（73）（78）（80）（82））という言葉は何度も発している。気に入った言葉（繰り返し症）を何度も繰り返すこの状態も、ここでいうところの「繰り返し症」であると考えられる。

タとの比較を通じて文体的な特徴を比較していくこと、音声データを用いて「文の包摂」の音調面の特徴を整理していくこと、歴史的な観点や通言語的な観点<sup>20</sup>も視野に入れて考察を進めていくことが挙げられる。

## 謝 辞

本研究は、国立国語研究所の機関拠点型基幹研究プロジェクト「多世代会話コーパスに基づく話し言葉の総合的研究」（プロジェクトリーダー：小磯花絵）の研究成果です。

## 参 考 文 献

- 泉大輔（2024）『現代日本語の逸脱的な造語法「文の包摂」の研究』，ひつじ書房。
- 影山太郎（1993）『文法と語形成』，ひつじ書房。
- 久賀朝（2022）「〈引用標識不在型複合名詞〉の音韻論的考察：文末音調に着目して」，『早稲田大学大学院文学研究科紀要』（67），pp.121-137.
- 小磯花絵・天谷晴香・居關友里子・白田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉・渡邊友香（2023）「『日本語日常会話コーパス』設計と特徴」『国立国語研究所論集』（24），pp.153-168.
- 曾睿（2017）「語構成から文構成へー形態素「一感」と自立語「感」との関わりから」，『国語学研究』（56），「国語学研究」刊行会，pp.142-155.
- 細谷諒太（2022）「「あるある的表現」としての英語の句複合語」，『東京大学言語学論集』（44），pp.39-59.

## 辞書・事典・データベース・関連 URL

『日本語日常会話コーパス』（データバージョン 2023.03），国立国語研究所（<https://chunagon.ninjal.ac.jp/cejc/search> 2024年6月11日閲覧）。

表 6 転記テキスト上の凡例<sup>21</sup>

タグ	概要	例
:	非語彙的な母音の引き延ばし	すご:い，けれども:
%	非語彙的な音の詰まり	す%ごい，解%析
(W)	言い誤り・発音の怠け等の一時的な発音エラー	(W コエ これ)，(W ギーツ 技術)

<sup>20</sup> 「文の包摂」は時代や言語を問わず普遍性のある現象ではないかという仮説がある（泉 2024）。例えば、「文の包摂」の実例は古典語（古くは平安時代）に既に存在していたことが確認されている（「内にもご覧ぜさせよ顔」「負けじ魂」「置いてけ堀」など）。同様に英語や韓国語にも「文の包摂」に類似する表現「I don't know face/Save-the-WHALES campaign/『We love Anne DIAMOND' party』」「문지마살인（直訳：尋ねるな殺人、「通り魔」の意）」がいくつも見られるため、本研究の成果によって他言語を対象とした分析への応用も見込まれる。

<sup>21</sup> 国立国語研究所「多世代会話コーパスに基づく話し言葉の総合的研究」のサイトにおける「日常会話コーパス」の「転記テキスト」の転記タグ一覧より抜粋 <https://www2.ninjal.ac.jp/conversation/cejc/transcript.html>（2024年8月5日閲覧）

(D)	語の言いさし	(D コ)明日から, (D #)
?	疑問型上昇調(強調型上昇調は除く)	行きます?, コップ?
(T)	小さい声で発話している箇所	(T これじゃないのか)
(L)	笑いが生じている箇所, あるいは単独の笑い	(L なんですけど), (L)
(C)	泣きながら発話している, あるいは単独の泣き	(C なにが), (C)
(S)	歌いながら発話している, あるいは歌詞を伴わない歌	(S ヘイヘイホー), (S)
<	発音に類する行為のうち会話の流れに関わるもの	<舌打ち>, <咳>, <口笛>
(U)	聞き取りや語の判断が不確かな箇所	(U ジャック)に, (U 国産/特産)
(X)	語が不明な箇所	(X フンジン)中に, (X # # #)
(K)	タグ等のために漢字表記できず可読性が落ちる箇所	(K シ:ツ 質)間, (K ナ%シ 梨)
(M)	音や言葉自体が言及の対象とされており(W)などで対応すると把握しづらい箇所, 設問や解答の番号もしくは音自体について言及している箇所	すごいを(M すっごい)と発音する
(O)	一般的に理解が難しい外国語・方言が用いられる箇所	(O ボッソワー), (O # # #)
(B)	喃語。乳児の音声に対してのみ付与する	(B アー), (B バ# # #)
(Y)	漢字表記の一般的な読みと発音が異なる箇所	(Y ゼツ 舌), (Y センゲン 浅間)
(G)	可読性が低い口語表現	(G 嫌 や:), (G もう も)
(F)	「あの」「その」等がフィラーとして用いられる場合	(F あの), (F そーの:)
(I)	「あ」「え」等の感動詞が挿入構造の内部にあり発話単位として分割されていない箇所	最近 (I あっ) 付いてるみたいな。
。	発話単位末	食べます., やったけど., うん。
+	知覚可能な休止により 1 短単位が分割される箇所	す+ ごい , 神+ 田川
(R)	個人情報などに関わる仮名・伏字処理を行った箇所	(R 国語)大学の(R 佐藤)さん
@	転記に対するコメント *	お願いします。@店員への応答
(時間) or (.)	[発話単位のみ] 知覚可能なポーズ長(秒)。0.1 秒より短いポーズは .(ピリオド)で表す。	サミット(0.736)もあるし., 今(.)えーつと。